27

横山さんのクラスでは、国語の授業で慣用句を調べ、カードにしました。【カード１】、【カード２】は横山さんの作ったカードです。【カード１】、【カード２】と、横山さんが【カード１】を作るために参考にした【資料】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【カード１】

猫の手も借りたい

意味　忙しくて、だれでもいいから手助けしてもらいたい。

用例　A

【カード２】

胸がおどる

意味　期待や興奮で胸がわくわくする。

用例　B

【資料】

日本では十二月三十一日を一年の最後の日とし、□と言ったり、「おおつごもり」と言ったりします。この日には、多くの人がそばを食べます。その理由はいろいろあります。たとえば、そばは細く長いことから寿命を延ばすなど縁起がいいという理由や、その年のよくなかったことを断ち切るという理由などです。欧米化が進んでいる日本ですが、十二月三十一日にそばを食べる人は半数以上いるのだそうです。だから、十二月三十一日のそば屋はとても忙しいのです。

1　【資料】の□に当てはまる言葉を、ひらがな五字で書きなさい。

2　【カード１】と【資料】を読んで、【カード１】の□Aに適切な言葉を、二十字以上、三十字以内で書きなさい。

20

30

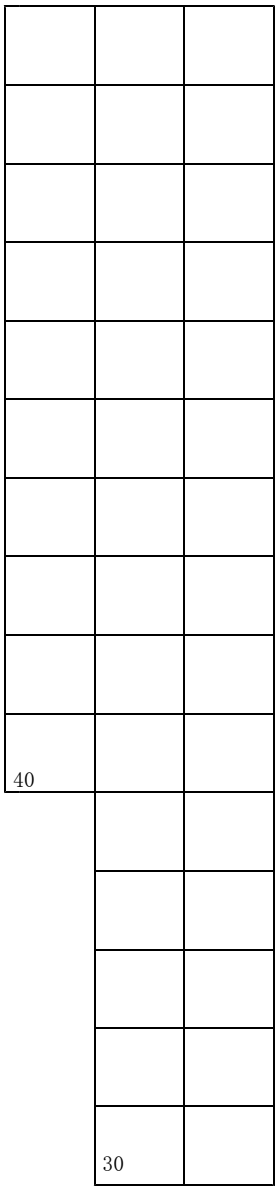
3　**【カード2】**の［　B　］に、「胸がおどる」を用いた短文を次の**条件1・条件2**に従って書きなさい。

条件1　次の**【設定】**に合う内容で、主語を明らかにして書くこと。

条件2　**三十字以上、四十字以内**で書くこと。

【設定】

北見さんの学校では、明日文化祭が開かれます。北見さんはその文化祭で、クラスのみんなと合唱曲を歌います。何日も前からこの日のために練習を重ね、やっと明日を迎えます。緊張もしていますが、みんなと一緒に歌えることを楽しみにしています。



問題について

［知識及び技能　(1)語彙］慣用句の用例を書く問題（慣用句を調べる）

語彙を豊かにするためには、意味を理解している語句を増やすだけでなく、実際の場面で使用することができるようにすることが大切です。着目したことわざや慣用句について、その意味を調べると共に、実際に使用する場面を想定しながら短文などを書くようにしましょう。その場合、主語と述語を照応させることに気をつけましょう。

○　解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、条件に注意して書くようにしましょう。

○　解答を読んで、自分で答え合わせをすることもできます。文章で書く問題は、解答の例文を参考にしましょう。

解答

27

1　おおみそか

2　（例）

十二月三十一日のそば屋は、猫の手も借りたいくらい忙しい。

（二十八字）

3　（例）

北見さんは、明日の文化祭でみんなと合唱できると思うと胸がおどった。

（三十三字）

＊　主語と述語が照応していること。